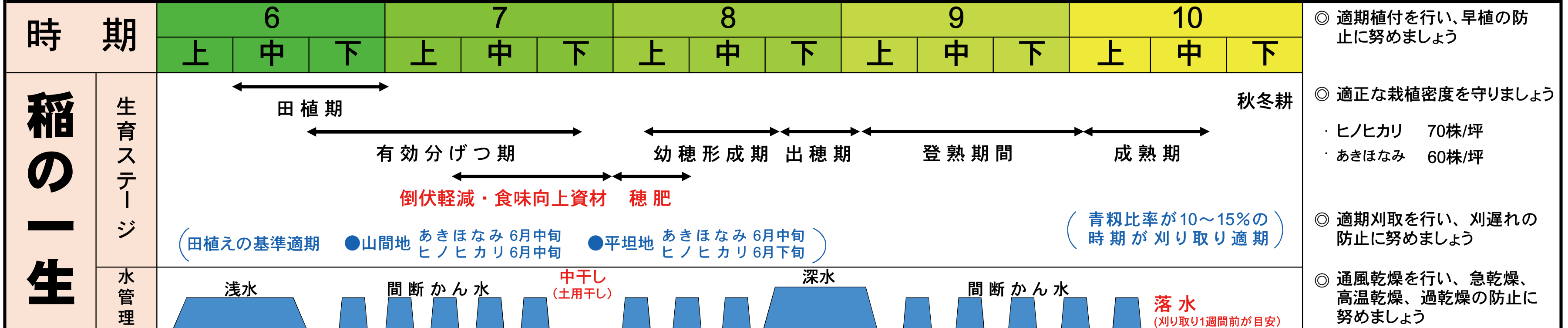


◎病害虫は早期の発見・適期の防除

◎病害虫の発生状況は
テレフォンサービスへ
ホームページアドレス

◎九九二四五一一五七

◎農薬の使用基準を守り飛散防止に努めましょう。



時期	6			7			8			9			10																							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																					
生育ステージ	田植期												秋冬耕																							
水管理	浅水			間断かん水			中干し(土用干し)			深水			間断かん水			落水(刈り取り1週間前が目安)																				
病害虫名	紋いウコ もんブ 枯ちカ 病類 メイ ガ			イヘ ネカ メロ ムシ カメ シ			葉い もち			ウコ ブノ カメ イ ガ			いも ち 病			稲紋 こう じ 病			いも ち 病			紋 い も ち 病			ト ビ イ ロ ウ ン カ			カ メ ム シ 類			カ メ ム シ 類			ト ビ イ ロ ウ ン カ		
農薬名	防人(さきもり)箱粒剤 スクラム箱粒剤			スタークル粉剤 スミチオン乳剤 DL			ブラシン粉剤 DL			オーケストラフロアブル モノケッタ粒剤 DL			コラトップ粒剤 5			モンガリット粒剤			ダブルカットバリダトレポン 粉剤3DL(穂揃期まで)			ノンプラス トレバラス 粒剤DL			トレポン粉剤 DL											
10a当りの散布量	1箱当り 50g			1000倍 100L			3kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg					

農薬安全基準

※回数については、本剤での使用回数です。

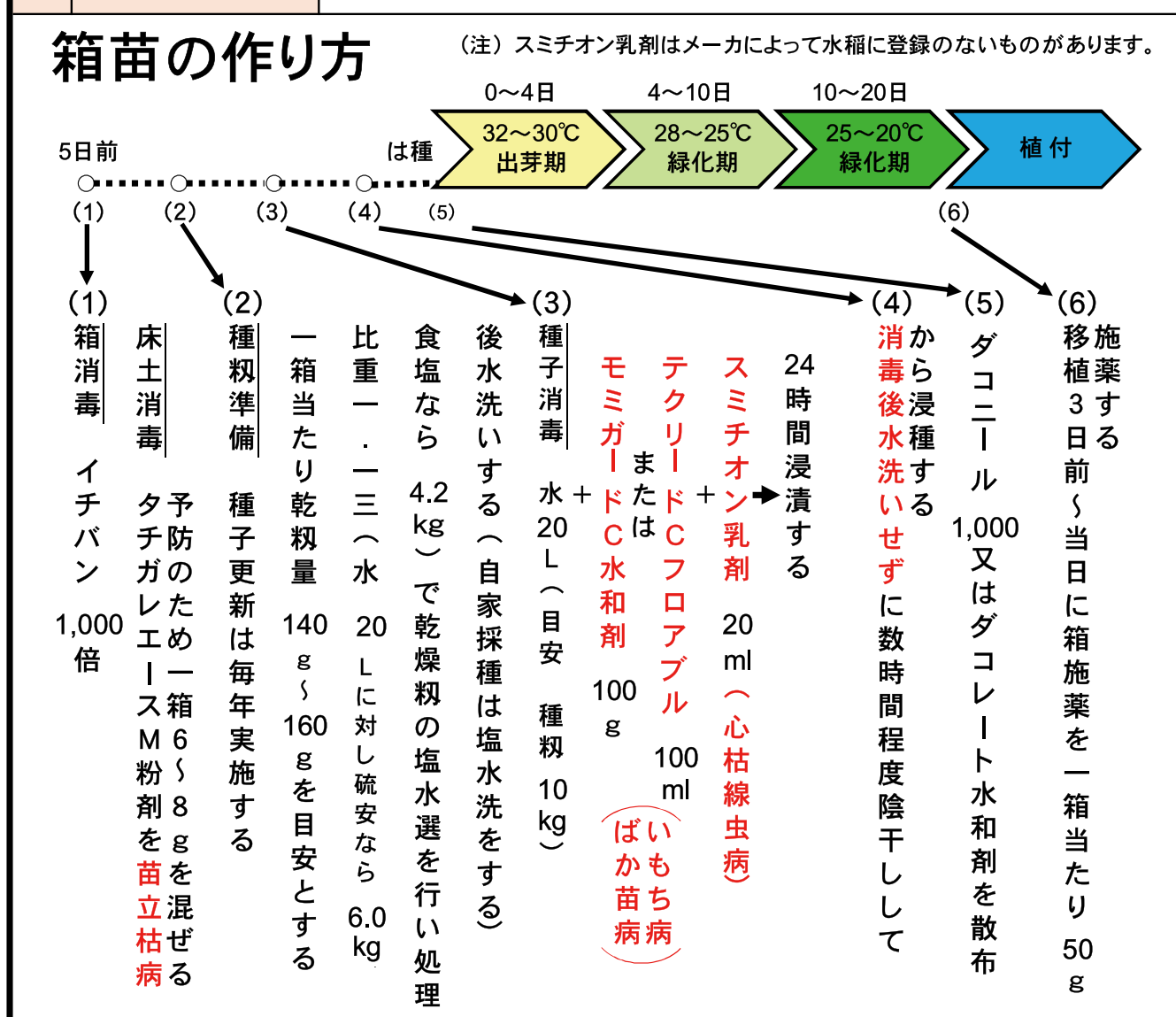
病害虫名	農薬名	使用時期	回数
いもち病	ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	2回以内
	コラトップ粒剤5	葉いもちに対しては 初発10日前~初発時 穂いもちに対しては 出穂30日前~5日前まで	
いもち病、紋枯病	ダブルカットバリダフロアブル	穂揃期まで	2回以内
稲こうじ病、紋枯病	モンガリット粒剤	収穫45日前まで	2回以内
稲こうじ病	ドイツボルドーA	出穂10日前まで	—
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	スクミノン	収穫60日前まで	2回以内
カメムシ類 (イネクロカメムシ含む)	スミチオン乳剤	収穫21日前まで	2回以内
	スタークル粒剤	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル粉剤DL		
	スタークル液剤10	収穫7日前まで	3回以内
ウンカ類(幼虫)、カメムシ類	オーケストラスタークルエア	収穫7日前まで	
ウンカ類、カメムシ類	エクシードフロアブル	収穫7日前まで	3回以内
ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ	トレポン粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内
	トレポンEW	収穫14日前まで	
いもち病、紋枯病、 ウンカ類、カメムシ類	ノンプラストレバラス粒剤DL	収穫14日前まで	2回以内
	ダブルカットバリダ トレポン粉剤3DL	穂揃期まで	
紋枯病、 ウンカ類(幼虫)、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤	出穂5日前まで (但し、収穫45日前まで)	1回
	オーケストラロムダン モンカット粉剤DL	収穫14日前まで	2回以内

※いもち病耐性菌が発生しやすいことから、アミスター、イモチエース、胤剤を含む農薬を使用する場合は、箱施薬剤及び本田散布剤のいずれか1回にしましょう。
※トビイロウンカについては、発生予察情報に基づいた第1世代幼虫の防除が重要です。(7月中旬~下旬)

箱施薬の各病害虫に対する効果

剤名	播種同時処理	いもち病	紋枯病	ウンカ類	コブノメイガ
フェルテラゼクサロン箱粒剤	可	—	—	◎	△
防人箱粒剤	可	○	—	◎	△
スクラム箱粒剤	可	○	◎	◎	△

◎効果大 ○効果あり △効果不足 —登録なし



除草剤の使い方 (使用の際は必ずラベルを読んで下さい。)

散布時期	除草剤名	10a当り散布量	雑草名	使用上の注意
移植時~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日まで)	イネキング1キ口粒剤 ※	1kg	水田一年生雑草 (ヒ等)	水は湛水で全面散布し、かけ流しをしない。
移植時~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日まで)	サラブレッドKAI1キ口粒剤	1kg	ウリカワ	薬害の恐れがあるので、散布後は補植しない。
移植時~ノビエ4.0葉期(但し移植後30日まで)	アシュラ1キ口粒剤 ※	1kg	マツバイ	畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。(風の強い日には散布しない)
移植後~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日まで)	クサツタ粒剤 (3キ口)	3kg	ホタルイ	水5~6cmためて散布し、4日程水をためる。
移植後~ノビエ2.5葉期(但し移植後30日まで)	ウィニングランジャンボ	10ℓ/㍓	ミスガヤツリ	バックは水溶性なので、雨などでぬらさないようにする。
移植時~ノビエ3.0葉期(但し移植後30日まで)	エンペラージャンボ エンペラー豆つぶ250	250g		ジャンボは、畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。豆つぶは、手やひしゃくを使って畦畔から散布できる省力型。拡散性が高く、豆つぶはドローンでも使用可能。水を5~7cmためて散布する。
移植後15日~ノビエ4.0葉期(但し収穫60日前まで)	ウィードコア1キ口粒剤 ※	1kg	一年生雑草 (ヒ等) 多年生広葉雑草	水を3~5cmためて散布し、3~5日程度水をためる。イボクサに効果あり。
移植後15日~55日(但し収穫50日前まで)	ハサグラン液剤	500~700ml	イネ科を除く一年生雑草 ウリカワ、ミスガヤツリ等	湛水・浅水状態で散布し、3日間は水を入れず、クロクワイに効果あり。
移植後20日~ノビエ6.0葉期(但し収穫30日前まで)	クリンチャーEW	100ml	ヒエ キョウスズメノヒエ	展着剤(ベタリン等)を加用し、25~100ℓの水に希釈して使用する。落水または湛水(水を3~5cmためて散布し4日程度水をためる)で使用する。広葉雑草には効果が無いので注意する。
移植後15日~ノビエ6.0葉期(但し収穫50日前まで)	トドメバスマF液剤	1,000ml	ヒエ ウリカワ ミスガヤツリ 等	展着剤は加用せず(不要)、70~100ℓの水に希釈して使用する。落水状態で散布する。落水状態にできない場合は極浅水で散布する。
移植後20日~ノビエ5.0葉期(但し収穫30日前まで)	ロイヤント乳剤	200ml		展着剤は加用せず(不要)、100ℓの水に希釈して使用する。落水状態又は湛水(3cm程度、3~5日程度)で散布する。落水状態にできない場合は極浅水で使用する。落水状態で散布した際は早め(3日以内)に入水してください。

※アシュラ、イネキング、ウィードコア1キ口粒剤は飼料用米品種の一部(みなちから、ミスホチカラ、オオナリ、夢十色などの長粒種系)に使用した場合、白化、枯死などの影響があるので使用できません。

標準的施肥例と品種別栽培の留意事項

資材名	10a当り施肥量	特 徴
ケイテツ	100kg	鉄分欠乏による秋落の防止。けい酸の補給による倒伏防止、増収・品質向上に役立ちます。
ケイカル	100kg	茎や葉が丈夫になり病害虫、倒伏、冷害などに強くなります。登熟歩合が向上します。
鉄入り苦土重焼燐	20~40kg	鉄分を含んだりん酸肥料です。根の生育を促進し、秋落防止や鉄欠乏の予防に効果があります。
鉄入りシリカ	40~60kg	ケイ酸・鉄分を含んでいますので、健全な根を作り、秋落・根腐れを防止します。
シリカサポート	40kg	高溶出のケイ酸により、倒伏軽減や受光体勢、登熟効果を高める効果が期待できます。

肥料名	ヒノヒカリ		あきほなみ		
	10a当り施肥量	特 徴	10a当り施肥量	特 徴	
骨粉入りあいら水稲	30kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。	40kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。	
イネリッチ	30kg	・生育状況を見て穂肥を施用する。	40kg	・生育状況を見て穂肥を施用する。	
ヒカリエース2号	35kg	—	—	—	
基肥	こめらく一発・普通用	30kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。 ・側方施肥対応(全層施肥でも使用可能)	—	—
	一発イネリッチ普通用	30kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。	—	—
穂肥	こめらく一発・晩生用	—	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。 ・側方施肥対応(全層施肥でも使用可能)	40kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。
	一発イネリッチ晩生用	—	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。	40kg	・ほ場の地力により施肥量を調整する。 ・穂肥は施用しない。
倒伏軽減	米造り一番	20kg	・食味向上、倒伏軽減対策。出穂40日前に施用。	20kg	・食味向上対策。出穂40日前に施用。
食味向上資材	ケイ酸カリ	20kg	・食味向上、高温対策。出穂40日前に施用。	20kg	・食味向上、高温対策。出穂40日前に施用。
穂 肥	BBNK-77	5~10kg	・生育状況を見て施肥量を調整する。 ・出穂20日前に施用する。	10~15kg	・生育状況を見て施肥量を調整する。 ・出穂20~25日前に施用する。

(注) 一発型肥料のプラスチック袋については、ほ場から河川や海へ流出しないように注意しましょう。
※ 標準的施肥例ですので、生育状況に応じた栽培管理を徹底しましょう。

- ◎ 品質向上対策について
 - ・登熟期に気温が高いと、「高温障害」により「心白米」等が発生するおそれがあります。このため、田植えを適期に行い、登熟期の高温を避けるようにしましょう。
 - ・地域及び水利等のほ場条件に適した品種を選定しましょう。
 - ◎ 抵抗性雑草について
 - ・長年、同じ除草剤を使用し効果なくなった雑草が発生しているほ場には、抵抗性雑草対策剤として、ウィニングランジャンボ・アシュラ1キ口粒剤・イネキング1キ口粒剤・サラブレッドKAI1キ口粒剤・エンペラー豆つぶ250を使用しましょう。
 - ◎ ウキクサ・藻類の対策について
 - ・モグトン粒剤を発生始~発生盛期(収穫45日前まで)10a当り2~3kg散布しましょう。
 - ・湛水散布し、落水・かけ流しをないようにしましょう。藻類には、部分的に散布しても効果があります。
 - ◎ スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生ほ場では
 - ・冬場に耕うんを行い殺菌しましょう。作業は寒い時期が効果的です。卵の塊をできるだけ除去しましょう。
 - ・田植え後は浅水にしましょう。
 - ◎ 稲こうじ病の発生ほ場では
 - ・種子伝染するため、発生した水田からは採種しないようにしましょう。
 - ・常発地帯では窒素肥料の多施用を避けましょう。
 - ・出穂20日前までに薬剤防除しましょう。
- ※ 枯油かすは、農薬として登録がとれておらず、魚毒性が非常に高いため、水田でのスクミリンゴガイ防除には使用できません。
※ 農薬は、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用しましょう。

農薬をご購入の際は印鑑をご持参下さい。